

「提言コンセプト」とMICEの効果（MIC+E）

＜提言コンセプト＞ アジアを代表する世界的競争力のあるMICE都市を大阪・関西に形成する

＜大阪・関西の強み＞

- ① 国土軸における西日本のゲート（関西国際空港等）
- ② 大阪国際会議場の国際会議開催件数は全国2位、展示会場面積では全国第3位のインテックス大阪が存在
- ③ 全国第2位の宿泊施設集積（5.7万室）
- ④ 日本を代表する歴史文化都市（京都・神戸・奈良）が30-60分圏内に立地する交通ハブ。
- ⑤ 韓国やメキシコなどに匹敵する関西の経済規模（約80兆円）

＜MICEの効果とは？（MIC+E）＞

MICEとはMIC+Eであり、特にEは観光関連消費だけでなく取引の経済効果が大きい

- M=ミーティング（会議・研修）、I=インセンティブ（報奨旅行）、C=コンベンション
- ・ M、I、Cの受け皿は会議場、ホテル等であり、大きくは観光概念に含まれ参加人数が評価軸。
- E=エキシビション（展示会、見本市）
- ・ 大型国際展示場を想定、テーマに関連する企業や団体、研究機関等が一同に集結、会議、宴会も含むが、取引が最終目的。評価軸は企業間等のマッチング数、成約取引額である。展示場とセットで持続するビジネスであり、5～10年累計での経済効果は極めて大きい。

提言骨子

提言の目的 ※「IRとMICEを一体とした構想」という独自性のある計画提案

- ① 大阪・関西がアジア太平洋地域の有力なMICE都市になる事。
- ② 大型国際展示場を備えた先進的MICE複合施設を整備し、IRと一体となって国際的なトレードショー・コンベンション・観光の一大拠点とする事。
- ③ その為のインフラ整備及び推進体制構築の意義を広く市民・行政・IR事業者に提唱し、気運の醸成に資する事。

MICE整備の課題

- ① 総論：今、世界のMICE環境は大競争の時代、とりわけアジア太平洋が急成長している一方、直近約10年間で日本の存在感が大きく後退しており、ハード・ソフト共世界標準から取り残されている。インバウンドに対する宿泊施設不足も深刻である。そこで、大阪・関西IRの整備を契機に日本を牽引できるMICE拠点を整備する。
- ② 各論
 - 展示場：インテックス大阪は設備の老朽化、床荷重、柱スパンなどの施設の旧態化、周辺環境を含め、10年後を見据えた代替施設が必要。
 - 会議場：大阪国際会議場は好立地で、都市型MICEとしての強みがあるも、展示場が狭く、その機能強化が必要。また夢洲との役割分担について整理が必要。
 - MICEの分散立地：会議施設、展示施設とも施設が分散立地し、大阪・関西全体での誘致、運営が困難。また大阪においては、千里エリア等を含め統一的な誘致オペレーションシステムが必要。

提言-1 夢洲に大型国際展示場を含むMICE複合拠点の整備を

夢洲にインテックス大阪に代わる屋内展示床面積10万㎡（全国1位、ソウル、北京、シンガポールと並ぶ）の展示場を整備する。そして世界水準の基本スペックの展示機能と会議・集会機能を備えた複合施設とする。また、一体的に屋外展示できるイベントスペースやホテル、エンターテインメント、文化施設等とも連携する。
そして、上記のMICE複合施設の建設についてはIR事業者の負担を原則とする。

〔整備を目指す施設規模／関連施設等のイメージ〕

- ① 展示場規模：10万㎡ 最大展示室1～2万㎡ 屋外展示（拡張）スペースを備える
- ② 5,000席規模の国際会議場及び1万人以上のレセプション可能なボールルームを整備。また、大型ホテル及び多様なカテゴリーの宿泊機能を集積させる
- ③ 関連付帯施設として、会議室・セミナー室150～200席×20室以上、最先端のICT環境の実現、駐車場等の整備
- ④ 24時間利用可能で、居住者のいない環境の整備
- ⑤ その他の機能・工夫として、最先端のスマートエネルギーシステム（運営コスト最小化）導入、食文化や医療健康の体験の誘導、見える化等

提言-2 大阪・関西におけるMICEの誘致体制の強化を

- ① 大阪におけるMICE誘致の機能強化に向けた行政の役割強化
 - ・ 世界規模のMICE誘致では各大会主催者の事務局との密接な関係性が重要。アジアの諸都市がしのぎを削る中、MICE誘致のための専門部隊として世界と戦える人材の質と規模の確保が重要。
- ② 大阪におけるMICEの誘致機能強化に向けたIR事業者との連携
 - ・ 夢洲のMICE複合拠点に対して（i）一定件数以上の大型MICEの誘致、（ii）M、I、C、Eそれぞれにバランスの取れた誘致をIR事業者にも義務づける。
 - ・ 大阪府域のMICE誘致に向けて：各国にグローバルセールスオフィスを構えるIR事業者の誘致部隊に協力を求める。また、大阪における誘致組織を支えるために、IR事業者からの拠出金を原資とする基金もしくは継続的な負担金をIR事業者に求める枠組みを整備。
- ③ 関西における官民でのMICE調整機能の構築
 - ・ 関西にはMICE施設の拠点が分散立地しており、世界に向けての誘致活動では、関西の規模に相応しい競争力を発揮できていない。そのため、関西全域の統一的な誘致機能の整備が必要であり、関西国際観光推進本部がその機能を担うことを検討するべき。

提言-3 既存施設の活用・強化ならびに新たな需要の創造を

- ① 大阪国際会議場周辺での中規模展示施設の整備
 - ・ 大阪国際会議場に近接する用地での展示施設を整備し、一体的に運用をすべき。
 - ・ 夢洲のMICE施設（→提言1）を含め、大阪府域における各MICE施設の活用方針や整備計画、役割分担などについて、関係機関が合意したグランドデザインを定めることが前提。
- ② 関西の歴史文化を活かしたユニークベニューの開発
 - ・ 関西が誇る歴史・文化施設などをユニークベニューとして活用し、相乗効果を発揮。
- ③ 大型展示会等の需要創造（西日本マーケットの掘り起こし）
 - ・ 大型イベントを創出するとともに、東京オリンピック開催前後を目指して、IRの整備時期に関わらず、オール関西として積極的に誘致、取り組みを直ちにスタートさせるべき。